

地震災害とは？

地震による災害は、建物倒壊、火災の発生、土砂崩れ、液状化現象などがあります。建物倒壊や土砂崩れなどによって道路が通れなくなったり、線路の安全確認により電車が動かなくなる交通障害もあります。また、停電やガスの停止、水道の断水が起こる場合もあり、電話やインターネットもつながりにくくなります。

地震のときの行動は？

地震の揺れを感じた場合や緊急地震速報を見聞きした場合は、あわてずにまずは身の安全を確保してください。そして、落ち着いてテレビやラジオ、携帯電話やスマートフォンなどで正確な情報の把握に努めましょう。

地震発生

1~2分

最初の大きな揺れは約1分間

- あわてずに身の安全を確保する

揺れがおさまったら

- 火元を確認する 火が出たら、落ち着いて初期消火する
- 家族の安全を確認する 倒れた家具の下敷きになっていないか確認する
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦の落下・ブロック塀の倒壊・自動販売機などの転倒に注意する



みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に声を掛けよう

- 要配慮者(高齢者、障がい者、乳幼児等)の安全を確保する
- 隣近所で助け合う
- ケガ人はいないか確認する
- 行方不明者はいないか確認する

出火防止 初期消火

- 消火器を使う
- 余震に注意する
- 漏電・ガス漏れに注意する 電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める



3分

テレビ・スマートフォン・ラジオなどで正しい情報を確認する

- 防災機関、自主防災組織の情報を確認する
- デマにまどわされないようにする
- 避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する



10分

数時間

3日

協力して消火活動、救出・救護活動をする

- 水、食料は蓄えているものでまかなう
- 災害・被害情報を収集する
- 壊れた家に入らない
- 近くの人を救出・救護する



屋内にいる場合

家の中

- 頭を保護しながら丈夫な机の下などに隠れる
- 火の確認はすみやかにする(ガスの元栓の処置も忘れずに)
- 要配慮者(高齢者、障がい者、乳幼児等)の安全を確保する
- 裸足で歩き回らないようにする(ガラスの破片などでケガをしないため)

大規模店舗や集客施設にいるとき

- つり下がっている照明などの下から避難する
- あわてて出口や階段に殺到しない

エレベーターに乗っているとき

- 最寄りの階で停止させて、すぐに降りる

屋外にいる場合

路上

- ブロック塀や自動販売機には近づかず、ビルの壁、看板や割れた窓ガラスなどの落下に注意する
- 頭をかばんなどで保護する

車を運転中

- あわてて急ハンドルや急ブレーキをかけず徐々に速度を落とす
- 避難するときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない
- 車検証などの貴重品を忘れずに持ち出す

山や崖付近にいるとき

- 落石や崖崩れに注意し、できるだけその場から離れる



震度分布図

想定地震：関東平野北西縁断層帯主部



液状化可能性分布図

想定地震：関東平野北西縁断層帯主部

液状化とは、地震の際に地下水位の高い砂地盤が震動により液体状になる現象です。砂質の地盤で起こり、地盤の上の建物を傾けたり浮き上がらせたりします。この地図は、マグニチュード 8.1 の地震が発生した場合の液状化の危険度を 250m メッシュで表示したものです。

